令和5事業年度決算の概要について

国立大学法人山梨大学の令和5事業年度財務諸表等の決算関係資料が文部科学大臣より承認されましたので、大学の財政状態や運営状況を広く知っていただくため、ここに公表いたします。

わが国は、経済を中心とする急速なグローバル化や少子高齢化といった急激な社会環境の変化が惹起した解決困難な種々の課題に当面しており、本学は、国民が当面する課題を克服し、わが国が持続的に繁栄できるよう、教育、研究、社会貢献機関としての本来の使命を果たす責務を負っています。この責務を果たすためには、本学の教育・研究機能を一層強化することが必要です。このため、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、以下のように教育・研究改革を推進しています。

第4期中期目標期間の2年目である令和5年度は、第4期中期目標・中期計画の達成に向け、各種取組を加速させています。

主なものとして、教育面では、教育研究組織の見直しに関し、デジタル化の加速度的な進展に対応するため、大学院の情報研究分野の定員を拡充し、高度情報専門人材の育成に向けた取組を開始した他、価値観の多様化やエネルギー問題など現代社会が抱える諸問題へ対応できる人材育成のため、工学部に7学科制から1学科複数コース制となる総合工学クラスの設置準備を進めました。研究面では、最先端の研究を加速させ、国内外の社会解決、スタートアップや新産業の創出等のイノベーションに結びつけるため、クリーンエネルギー及び先端脳科学分野における研究拠点施設の整備を開始しました。

また、本学医学部附属病院は、令和5年度に開院40周年を迎えました。これまで、県内唯一の特定機能病院として、高度医療の提供から地域医療体制の確保に努めてまいりましたが、令和5年度から外来機能強化棟の整備を開始し、さらなる高度医療の提供を目指しております。

本学は今後も中期目標・中期計画の達成に向け、厳しい財政状況の中、外部資金の獲得等自己収入の確保を図りながら、一層の経費節減や事業の見直し・効率化等を継続して進め、教育・研究活動の更なる充実・発展に努めるとともに、その成果を活かした社会貢献を進めてまいります。

公表にあたり、ご支援いただいた関係各機関や地域の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本学が今後も「地域の中核を担う人材、世界で活躍する人材」の養成を通し、社会の発展に寄与することができますよう、引続きのご支援をお願い申し上げます。